



AQU 先端テクノロジー総研 《ニュースリリース》 2016/03/31

報道関係者各位

お世話になっております。

AQU 先端テクノロジー総研と申します。

ニュースリリースをお送りしますので、よろしくお願いいたします。

一人称スポーツ VR で利用したい分野は、「スカイダイビング」がトップ!
臨場感HMDのソフト、サービスにビジネスチャンス。民生、産業の用途拡大の兆し
AQU 先端テクノロジー総研調査

<http://www.aqu.com/vr-ar-need/>

<http://www.aqu.com/aqu-news/2016-3-31.pdf>

<http://www.aqu.com/vr-ar-need/sample-1.pdf>

<http://www.aqu.com/>

ニュースリリース

内容サンプル

AQU メインページ



- 360 度カメラなどの高性能カメラによる臨場感映像は新たな HMD(ヘッド・マウント・ディスプレイ)の有力コンテンツのひとつだ。一人称スポーツ VR で利用したい分野は「スカイダイビング」がトップ。続いてフィギュア・スケート、スキューバダイビング、スキーとなった。2, 100人を対象にアンケート調査を実施したところ、こんな結果が出た。
- この調査は調査会社の AQU 先端テクノロジー総研(代表、子安克昌)が、インターネットを利用して、2, 100人の協力を得て、3月25～29日に実施。調査報告書『臨場感HMD! VR、AR、MRの新用途、新需要動向調査』として、まとめたもの。

- 市場ではFacebook傘下のオキュラスVRの製品オキュラスリフトの販売開始、そしてソニーのプレイステーションVRの発表などが注目されている。対応する機器としてのゲーム機、高性能パソコンだけでなく、360度カメラ、デジタルカメラ、スマートフォンといった関連機器、さらに、臨場感HMDのソフト、サービスなどにおいて、ビジネスチャンスは大きなものがある。今回のアンケート需要調査では、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、SR(代替現実)などへの関心度や、ウェアラブル・アクションカメラ、VR-HMD、AR-HMD、ドローン(マルチコプター)、360度カメラ(全天周)などのHMD関連システムに対する需要度を調査している。
- 未来型、臨場感HMD利用サービスへの期待、コメントでは、エンターテインメント分野以外に、医療、観光などに期待する声が聞かれた。「エンターテインメント分野よりも遠隔医療や在宅ワークの支援につながる方に期待している。」(35才、男性、会社員)、「神経科治療、リハビリなどの医療や健康づくりに、役立たせられればよいと思う。」(50才、女性、会社員)、「医療の現場で、リハビリやレクレーション、ストレス解消、痛みの緩和に役立てたら素晴らしいと思います。」(50才、女性、専業主婦)、「難病の人たちに役立てるようになればよい。」(61才、女性、専業主婦)といった意見もある。また、外出できない人をサポートするサービスも面白い。「外出できない、体の不自由な人のサポートを遠隔のロボットとドッキングできればいい。」(41才、男性、公務員)、「外出できない方に映像を送り、一緒に旅行に行っている臨場感を味わってもらえたらいいと思う。」(66才、女性、パート・アルバイト)などがある。このあたりは高齢者向けサービスともつながってくる。「自分自身が高齢になり身体機能が充分でないので、せめてヴァーチャルの世界で若い時の思い出を実感、そして夢を実現したい。」(64才、男性)といった意見があった。
- なお、当調査はHMD関連ビジネスに挑む、ビジネス開発、研究開発、製品サービス開発に取り組む関係者に有益な内容となっている。

『臨場感HMD！VR、AR、MRの新用途、新需要動向調査
—臨場感HMD関連ビジネス市場調査、需要調査編—』

<http://www.aqu.com/vr-ar-need/>

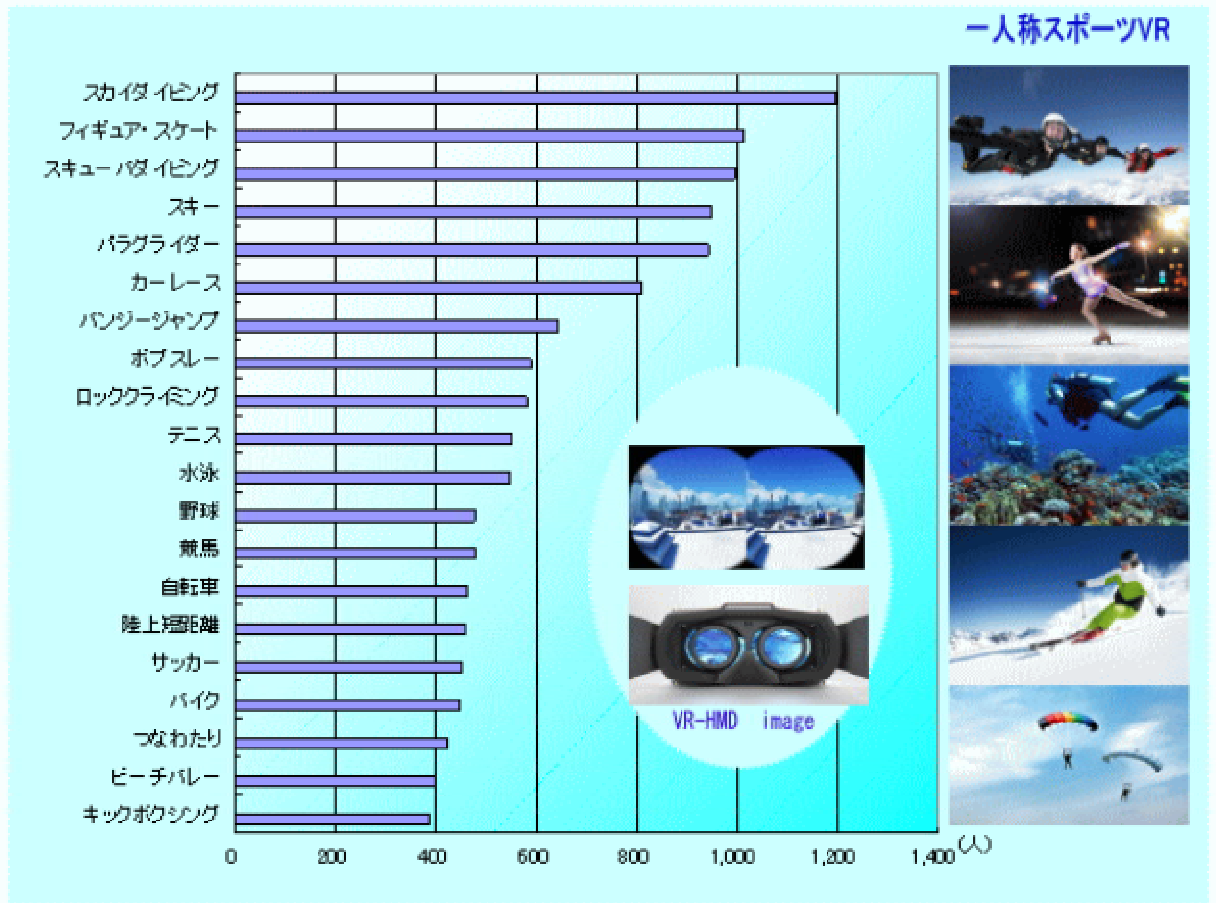
◆レポート体裁 プリント製本A4版、PDFファイル 67頁

ISBN 978-4-904660-28-7

いくつかの注目ポイントについて、お知らせいたします。

【調査ポイントの一例】

スポーツVR動画。選手視点の実写、全方位映像のスポーツVRに対するニーズ(上位20)
※調査の一部



『臨場感HMD！VR、AR、MRの新用途、新需要動向調査』
(AQU先端テクノロジー総研)

はじめに

HMD(ヘッドマウントディスプレイ)関連システムは、いよいよ市場が開花する時期に入った。

市場ではFacebook傘下のオキュラスVRの製品オキュラスリフトの販売開始、そしてソニーのプレイステーションVRの発表などが注目されている。対応する機器としてのゲーム機、高性能パソコンだけでなく、360度カメラ、デジタルカメラ、スマートフォンといった関連機器、さらに、臨場感HMDのソフト、サービスなどにおいて、ビジネスチャンスは大きなものがある。

今回のアンケート需要調査では、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、SR(代替現実)などへの関心度や、ウェアラブル・アクションカメラ、VR-HMD、AR-HMD、ドローン(マルチコプター)、360度カメラ(全天周)などのHMD関連システムに対する需要度を調査している。

臨場感HMDの利用用途のひとつとして、スポーツVR動画がある。これは選手視点の実写、全方位映像のスポーツVRであるが、スポーツの魅力を感じたり、疑似体験ができる。1人称視点のスポーツVR動画コンテンツが登場しつつある。そこで、1人称視点の撮影によって、自分がまるで選手になったかのような感覚で映像(全方位、

360度)を見られるとしたら、どのようなスポーツの実写、VR動画を体験してみたいかを質問した。その結果、スカイダイビングがもっとも多く、続いて、フィギュア・スケート、スキューバダイビング、スキー、パラグライダー、カーレースなどが上位に入った。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、スポーツへの関心が高まる中、こうしたサービスとともに、臨場感の得られる360度カメラの需要も拡大してゆくと思われる。

HMDメーカーに対する評価コメントでは、ソニーに対するものが多かったが、「SONYが持っているコンテンツ(映画、ゲーム+α)を最大限に活用してコストパフォーマンスの良いVR提供を期待している。」(64才、男性、会社員)、「PlayStationVRに期待しています。いろいろなゲーム開発されているそうなので早く体験したい。」(58才、男性、会社員)、「V字復活を遂げたソニーに期待しています。」(48才、男性、会社員)、「ソニーに期待している。ゲームでいろいろなことを疑似体験したい。特に、有名人と一緒にダンスしたい。」(17才、女性、学生)などがあつた。このほか、Google、オキュラスVR、マイクロソフト、セICOEブソンなどの評価コメントが得られた。

未来型、臨場感HMD利用サービスへの期待、コメントでは、エンターテインメント分野以外に、医療、観光などに期待する声が聞かれた。「エンターテインメント分野よりも遠隔医療や在宅ワークの支援につながる方に期待している。」(35才、男性、会社員)、「神経科治療、リハビリなどの医療や健康づくりに、役立たせられればよいと思う。」(50才、女性、会社員)、「医療の現場で、リハビリやレクリエーション、ストレス解消、痛みの緩和に役立てたら素晴らしいと思います。」(50才、女性、専業主婦)、「難病の人たちに役立てるようになればよい。」(61才、女性、専業主婦)といった意見もある。また、外出できない人をサポートするサービスも面白い。「外出できない、体の不自由な人のサポートを遠隔のロボットとドッキングできればいい。」(41才、男性、公務員)、「外出できない方に映像を送り、一緒に旅行に行っている臨場感を味わってもらえたらいいと思う。」(66才、女性、パート・アルバイト) などがある。このあたりは高齢者向けサービスともつながってくる。「自分自身が高齢になり身体機能が充分でないので、せめてヴァーチャルの世界で若い時の思い出を実感、そして夢を実現したい。」(64才、男性)といった意見があつた。

当調査は、2,100人を対象に、アンケート調査を実施し、臨場感HMDの需要動向をまとめた。また弊社調査データファイルを参考資料として掲載した。当調査がHMD関連ビジネスに取り組む各位のビジネス開発、研究開発、製品サービス開発に少しでも寄与できたら幸いである。

AQU先端テクノロジー総研

※お問い合わせ連絡先

株式会社 AQU 先端テクノロジー総研

<http://www.aqu.com/>

〒260-0027 千葉市中央区新田町 36-15

千葉テックビル 6F FLPC

TEL 043-204-1258

FAX 043-204-1316

子安、那須

info@aqu.com
